

小田原の本土決戦

(1)本土決戦に小学生も動員

私は、故あって小田原地方の太平洋戦争直前直後の歴史を調べることになり、文献を調べていると、次の文に出会い、もう一度自分の知識を正確に見直したいとの強い衝動に駆られました。

①「(小田原市)足柄国民学校でも昭和20年7月20日より20日間、高等科1年(現在の中学1年)の男女が、石垣山の軍の陣地構築工事に協力のため動員されている。8月10日には高等科1年に代わって初等科6年男子102名が軍の作業に動員された」

②7月20日、城内国民学校高等科の女子も陣地構築に動員されており、8月には初等科6年生が動員されることになった」

③沿岸部に近い石垣山や入生田の長興山(今では美しいしだれ桜の名所です)の大砲陣地の近くでは、国民学校児童がコンクリートに使う砂を背負い、まるで蟻が行列をなすように運んでいたという証言もある」

以上の引用は、香川芳文著「小田原地方の本土決戦」夢工房刊から一部文字を変えてあります。

今の小学6年生が陣地構築に動員されている事にショックを受けました。

陣地構築とは、米軍の日本本土上陸に備えて、本土決戦をするために初めは丘陵地帯に地下25mの穴を掘る作業です。後には海岸地方で隧道やタコ壺陣地を作ることです。

(2)なぜ本土決戦が小田原地方に浮かび上がったのか？

有力説は米軍が企てたコロネット作戦にあります。コロネットはU字型をした女性の頭飾りに用いられる道具です。東京を挟んでU字型の地形は九十九里浜から相模湾の線状になります。双方から上陸して東京に進駐するという作戦です。相模湾側では最終的に国府津から二宮海岸に絞られているようですが始めは小田原市に陣地が構築されます。(九十九里浜地方については研究が及びませんでした)

三島から伊豆半島は特攻基地が作られ水上特攻兵器（回転、海竜、震洋）が人と共に配備されます。相模湾に近づく米軍艦船に体当たりする為に300人の清水航空隊海軍学校予科練習生が真鶴に水上特攻のために待機させていました。狂人的作戦と言う他ありません。

(3)第53軍―第84師団が駐留

米軍が上陸して東京に進攻しようとした相模湾内では小田原市から二宮海岸の間が標的となっていました。この本土決戦の為に陸軍は特別の編成をします。陸軍の組織は敗戦直前では、方面軍～軍～師団～連隊というピラミッド組織になっており、本土決戦で小田原地方に配属されたのは第12方面軍、第53軍、第84師団でした。この師団この時期にあつて本土に残された精鋭部隊で、主なものは、歩兵第199大隊、200大隊、201大隊です。（その他に速射砲等）

一大隊の人数は3,090人で他の速射砲隊等を含めると一万人の規模です。これらの軍人が昭和20年4月から小田原地方に駐留して地下壕を掘ったり陣地構築を始めました。三つの大隊の担当地域は次の通りです。

①歩兵第199連隊は

第1大隊～丘陵北部の久野、荻窪、舟原、諏訪原、南足柄の三竹

第2大隊～真鶴、湯河原方面

第3大隊～久野、坊所、荻窪、辻村公園と水之尾の間の威張山、石垣山、早川、

②歩兵第200連隊は、酒匂川東側地域、国府津、二宮から北の丘陵地帯、大井、中井方面

③歩兵第201連隊は、当初は沼津方面でしたが、7月に二宮の吾妻山の西側から中村川に配置されました。

4月から7月初旬までの作戦は「後退配備の持久戦」を採り、陣地構築は久野、荻窪、舟原や大井松田の丘陵地帯で行われていましたが作戦が「水際作戦」に変更になり第84師団の主力を相模湾に結集して、ここでの本土決戦を予想していたと思われます。第140師団、316師団も大磯、平塚に配備されています。

8月頃から多くの兵士が吾妻山から中村川の間地域の寺院、公民館、一般の民家に駐留していることから、本土決戦場は国府津から二宮海岸と的が絞られたと考えられます。

歩兵第199連隊の丘陵部での陣地構築が遅れ、冒頭のような児童の動員までして構築を急いでいます。

(4)本土決戦の準備

本土決戦は昭和20年4月1日米軍が沖縄本島に上陸したことを受けて、4月8日大本営は「決号作戦準備要綱」を発表、それによって第84師団が小田原にやって来ます。

①第84師団は司令本部を4月5日、小田原の城山国民学校に置きます。その後歩兵第199連隊は本部を芦子国民学校に置きます。4月末からは高等科(今の中学1-2年生)が陣地構築に緊急動員されます(学徒報国隊-学徒勤労令-決戦教育措置要項)

②一般の住民は町内会・隣組(今の自治会組織)を通じて軍令が出され5月8日から15日間、1日300名、延べ4500人の地域住民が舟原作業場に陣地構築のため動員されます。

陣地構築とは、4月から6月末の段階では丘陵部(久野、荻窪方面)で、爆弾に耐えられる地下25m以上の掩護土層を造ることです。ここに兵士が潜って待機し米軍の戦車が海岸に上陸して内陸に進攻して来た時に、戦車を下から又は後ろから突撃して、東京方面への進攻をくい止めるという「後退配備持久戦」戦法に必要なものでした。米軍の戦力が読めなかったような幼稚な作戦です。

③既に、5月以前に東京、大阪、名古屋神戸、鎌倉、川崎等がB29による大空爆を受けて敗戦は時間の問題になっているにも拘らず、5月12日に「国民義勇隊組織要綱」が町内会・隣組常会を通して出され、6月23日には「国民義勇戦闘隊」(天皇親卒の皇軍となり皇土を守護するため身命を捧げることがを任務とする。それはそれは名誉なこと、感謝すべきこと)となり、15歳から60歳迄の男子(1947年の男子平均寿命は50,06歳)、17歳から40歳迄の女子(1947年の女子平均寿命53,96歳)に対して義勇兵の義務を課して、最後の戦争人的資源を集めようとしていたのです。

④5月22日「決戦教育措置要綱」の閣議決定を受けて「戦時教育令」が出され、学徒隊が編成されます。「戦時教育令」の中心的な内容は、「徴集、召集を受けた学徒がこれによって正規の期間在学できない場合(戦死、負傷を含む)でも卒業できるという有難い特典を天皇から戴いた」と言うものです。本文が入手できませんでしたので解説を引用します。

「戦時教育令は殆んど異例とも申すべき特別の御上諭を拝して、本令御制定の由来を紹述せられ、恐れ多くも戦局の危急に臨み 陛下親しく忠誠純真なる青少年学徒の奮起を嘉し給ひ、而して更にその奮起に期待あらせられ、い

よ／＼その使命達成に邁進せしめんと優渥なる思召しに出づるものである。この有難き 陛下の御信任を恭ふし、この任を与へられたる教職員学徒はもとより、苟も文教に携はるものにして、この光栄に恐懼感激、決死以て君恩に報い、狂瀾を既倒に回(めぐ)らさんことを誓はざるものがあらうか」抜粋

狂人が狂瀾を奇智に回らす如き文章です

更に学徒に対しては7月1日、男子には皇土防衛要員として実践的な活動が要請され、学徒隊の結成を命じています。7月2日県立小田原中学校で、3日には城内国民学校で学徒隊が結成されています。

⑤小田原地方の本土決戦の真剣さは、陸軍大臣阿南惟幾が6月27日小田原の陣地築城状況を視察し「だるま」(料亭)で会食していることから窺えます。

この視察の目的は7月初旬迄に丘陵部での陣地築城を終え、後退配備持久戦から、海岸地区での水際作戦に速やかに出る為に現地に圧力をかけることと思われま

す。水際作戦は「皇土を敵軍に一步たりとも踏ませない」とする陸軍一派の考えによるものです。7月になると第201連隊は二宮の吾妻山の西側から中村川に配置され、他の師団も加わり二宮地域の軍備が増強されます。

二宮海岸の近くでは、海岸手前の陣地(民家の庭)から海岸に向けて、現在の国道一号線の下に4-5本の隧道を通し、海岸には塹壕であるタコ壺陣地を造っておき、米軍の上陸時に予想される艦砲射撃や空襲が終わって、上陸用の舟艇が動き出したら、待機していた民家の庭から隧道を通過してタコ壺に入り、戦車砲が死角になるまで近づいてきたとき、爆薬を持ってキャタビラに飛び込み戦車を動けなくする。体当たり戦法で敵に一回は一撃を与えそこで倒れても後に続くものがあるだろうと考えた「斬り込み」「体当たり戦法」「肉弾攻撃」です(第84師団長談)

同じことは国府津駅近くでも行われています。(割愛)

海岸の砂地での陣地構築は掘るたびに砂が崩れるので、ドラム缶や酒樽を用いたり、竹で籠を作り埋める等あらゆる工夫をしています。

最後の任務は兵士一人がこのタコ壺に潜んで敵に一撃を加え東京への進攻を遅らせることでした。特攻の他の何ものでもありません。

(5)誰も正常な判断ができなかった

この頃になると政策にしる戦略、戦術にしる、コロコロ変わり、軍部内の混乱、権力争いに收拾がつかなくなって、一個人が天皇の言葉を用いての強い発言、それがどんなに狂人的なものであっても、土壇場では採用されます。心理学で言うと混乱状況にある幼児の決断のような迷走ぶりを呈しています。

6月23日の沖縄の悲劇に学ばず、二つの原爆によって、ようやく2週間以上無視続けたポツダム宣言の受け入れを表明したのが8月10日でした。玉音放送は15日正午、陸海軍が停戦命令を出したのは16日です。

本土決戦は免れましたがもし実行されていれば、小田原地方は広島、長崎、沖縄のような悲惨な状況になっていたと思われれます。

(6)最後の空爆が小田原に

本土決戦は回避されましたが、何故か小田原は8月15日の未明にB29による空爆を受け、高梨町、青物町、宮小路、一丁田地域で402戸、罹災者1844人死者48人、負傷者65人と記録されています。何故なのか諸説ありますが割愛します。

この空爆は玉音放送の前、最後の都市空爆になります。（この後にもう一つ大空爆を受けているのが土崎製油所です）

小田原空爆の碑は小田原市浜町3-1-32に建てられています。

(7)小田原市へ集団学童疎開

更に不可解なことに小田原市は昭和19年9月に横浜市の大岡山国民学校の児童485人を市内15の寺に集団学童疎開で受け入れています。再疎開された記録が見当たりませんが、本土決戦を覚悟しながら、その場に学童疎開させた神奈川県知事の判断が理解できません。政府は始め静岡県を考えていようですが、知事は他県に迷惑をかけられないと考えての決断であると記されています。小田原の多くの国民学校の児童が陣地構築の援護に動員されています。疎開児童も例外ではなく現地の国民学校の児童と同じ扱いを受けています。

(8)歴史に学ぶ

①私たちは今、世界各地で起きている戦争の悲惨さ残酷さを毎日テレビで見えています。日本は幸いにして平和憲法に守られ戦争することがありませんでした。その事で沢山の特典を得てきました。経済大国にもなり、医療や様々な文化の発展、清潔で豊かな生活が享受できています。イタリアでも戦争放棄の憲法がありましたが拡大解釈され戦死者を出しています。（別添朝日新聞6月23日記事参照）

②しかし、立憲主義の国になりながら、政府の閣議決定によって集団的自衛権のみならず集団的安全保障の名のもとで武力行使ができるように憲法解釈を改めようとしています。これは憲法第9条の下で戦争できる国に変えるということです。日本が戦争できる国になるとどうなるかは昭和史を紐解くと明らかになります。

③小田原の本土決戦から学べることは、児童まで戦争に巻き込む国民文化を長い時間をかけて政府が立法措置を通して作ってきました。例えば国家精神総動員実施要項は昭和12年、国家総動員法は昭和13年、青少年に賜る詔書は昭和14年に発令され、それらを実施する為の諸綱領によって適用範囲を拡大されながら改正され、学校報国隊、隣組組織の法制化を通して皇国思想の強化、監視体制を作り浸透させ、昭和20年に完璧に近い形で実施されていることです。皇国思想は根深く日本の文化に潜在しています。戦後でも困った時には天皇の意見を求めたことがあります。(1971年スミソニアン合意後の円高による経済界の混乱を当時の大蔵大臣が天皇に上奏した驚天の出来事がありました)

④教育は文化を形成しますから長い時間影響力を持ちます。教科書問題は若い命に影響します。これらに対して私たち個人は何の力もありません。平和憲法を守る為には家庭教育しか無いと私は考えます。それ故に、老人は戦争体験を孫に語らねばなりません。

老人の生き甲斐と使命がここにあると考えています。その為には憲法第9条に熟知し戦争の放棄の意味と意義を説明する能力と信念が必要です。

この一ヶ月を「小田原の本土決戦」に費やしました。年表も作りました。
興味ある方は本文頁以下をご覧ください。

以下は朝日新聞の記事からの引用です

(1)沖繩の敗戦記念日 (6月20日)

(2)イタリアでも戦争放棄の憲法 (6月23日)

沖縄の敗戦記念日

沖縄の決戦は本土決戦の時間稼ぎであったと言われます。平和憲法も沖縄の犠牲の上になりたっています。この日を忘れないために朝日新聞の記事を引用し掲載します

毎年6月23日、沖縄は休日なんだね

2014年6月20日05時00分



印刷

沖縄戦の経緯／沖縄戦の戦没者

◇県民12万人以上が犠牲(ぎせい)になった「沖縄戦」の「慰霊(いれい)の日」だ

コブク郎 沖縄(おきなわ)では6月23日が休日なんだって？

A 「慰霊（いれい）の日」のことだね。太平洋戦争末期（たいへいようせんそうまつき）の1945年3月末からおよそ3カ月間、「沖縄戦」といわれる激（はげ）しい戦闘（せんとう）が展開（てんかい）され、多くの県民が亡くなったんだ。6月23日は、司令官（しらいかん）が自ら命（いのち）を絶（た）って、日本軍としての組織的な戦闘が終わったとされる日なんだ。それで県がこの日を条例（じょうれい）で慰霊の日と定め、毎年追悼式（ついとうしき）を開いている。

コ 「東京（とうきょう）戦」とか「大阪（おおさか）戦」という言葉（ことば）は聞かないけど、どうして沖縄戦といわれるの？

A 10万人が亡くなった東京大空襲（だいくうしゅう）など日本各地で多くの住民が犠牲（ぎせい）になった。ただ、沖縄が決定的（けつていてき）に違（ちが）うのは、一般の人々が暮（く）らす場に米軍や日本軍が乗り込んで、住民を巻き込んだ地上戦（ちじょうせん）を行ったこと。死者は日米あわせて約20万人。うち沖縄県民は12万人以上で、県民の4人に1人が亡くなったとされる。

コ どうして戦いの場になってしまったの？

A 日米両軍の思惑（おもわく）が背景（はいけい）にあった。本州（ほんしゅう）など日本本土の攻撃（こうげき）をめざしていた米軍は、本土に向かう爆撃機（ばくげきき）の拠点（きょてん）として沖縄を占領（せんりょう）しようとした。日本軍は米軍の本土接近（せつきん）を遅（おく）らせるため、沖縄で時間稼（かせ）ぎを凶った。一般の住民や生徒も防衛隊（ぼうえいたい）や学徒隊（がくとたい）として駆（か）り出され、命を落としたんだ。

コ リゾート地の沖縄にそんな過去（かこ）があったんだ。

A 過去じゃない。地中には不発弾（ふはつだん）がまだ約2千トン埋（う）まっていると推計（すいけい）され、工事現場などでよく見つかる。沖縄が米国から日本に返された1972年以降（いこう）だけで、6人が不発弾のために亡くなった。沖縄県内の別の場所に移（うつ）す計画が問題になっている米軍普天間（ふてんま）飛行場も、沖縄戦の後、集落（しゅうらく）や田畑（たはた）を米軍が航空基地（こうくうきち）として整備（せい

び) したのが始まりなんだ。「沖縄戦は終わっていない」。県民の多くがそう思っている。(松川敦志)

(集団的自衛権 海外では) 解釈改憲、 重ねる派兵 イタリア、憲法 11 条「戦争放棄」

2014年6月23日05時00分

第2次世界大戦の敗戦後、日本と同じく新たな憲法に「戦争放棄」を定めたイタリア。だが、歴代政権は人道的介入や復興支援などを理由に憲法の解釈を広げ、他国への派兵を繰り返してきた。平和主義の理念は変質し、母国を遠く離れた戦地で兵士の命が犠牲になっている。

5月初旬、ローマを訪れた小野寺五典防衛相に、イタリアのピノッティ国防相はこう語りかけた。「日本とイタリアは過去の戦争からの様々な歴史的な教訓がある国。イタリアにも、国際紛争を解決する手段としての戦争を放棄するという、日本の憲法と同じような規定があります」

一方、会談で小野寺氏は安倍政権が取り組む集団的自衛権の行使容認に向けた議論を説明。すると、ピノッティ氏はイタリア憲法も集団的自衛権の行使を認めているとして、「日本の現在の議論を深く理解します」と応じたという。

戦後の1948年に施行されたイタリア共和国憲法は、第11条で戦争放棄を定めた。ただ、日本国憲法と違い、同条の後段には国連加盟と国際社会への復帰を念頭に置いたくだりがあり、歴代政権はこれを「国際平和の促進」などとして柔軟に解釈することで海外派兵につなげてきた。

■ユーゴ空爆拠点

イタリアは49年、北大西洋条約機構(NATO)に加盟。82年、レバノン内戦ではパレスチナ難民の保護を名目に派兵。91年の湾岸戦争では多国籍軍に航空機と艦船を送った。

「戦争放棄条項が踏みにじられた」として大きな議論となったのが、99年の旧ユーゴスラビア空爆だ。旧ユーゴはNATOの域外にあり、国連安全保障理事会の決議もなかった。空爆は国際法上の根拠が薄いとされたが、政府は支持。イタリア国内の基地は欧州最大の出撃拠点と化した。

イタリア国会はNATO軍への参加について「後方支援に限定する」などと決議したものの、米軍の護衛についたイタリア機は旧ユーゴの軍事拠点を爆撃した。当時のダレーマ首相は「近隣国に展開するイタリア軍部隊や、人道援助団体を守る責任があった」などと弁明に追われた。

■アフガンに3000人

アフガニスタンには02年から、イラクにも03年から派兵した。イタリア軍によると、今年5月末現在で国連平和維持活動（PKO）を含め、25の国と地域に計5738人を派遣中。最多はアフガンで、5割強の2995人が駐留する。

アフガンではこれまで、従軍記者1人を含む54人が死亡し、651人が負傷した。犠牲者の1人、イタリア陸軍のマリオ・フラスカ上級伍長（享年32）は11年9月23日、西部ヘラートで死亡した。

<イタリア共和国憲法と第11条> イタリアでは第2次世界大戦後、連合軍の占領統治下に法学者ら75人の憲法委員会が設けられ、憲法草案がつくられた。共和国憲法は制憲議会により1947年12月に可決され、48年1月1日に施行された。戦争放棄を定めた第11条は次の通り。

「イタリアは、他国民の自由に対する攻撃の手段および国際紛争を解決する手段としての戦争を放棄する。国家間の平和と正義を保障する体制に必要なならば、他国と同等の条件のもとで主権の制限に同意する。この目的を持つ国際組織を促進し、支援する」（以上引用一部割愛） 拡大解釈の怖さを学びます。閣議決定で簡単に憲法解釈が変えられることは当初予想もしなかったことです。時代の変化と解釈の在り方は政治力に依っています。